

## 議案第 39 号 愛知県後期高齢者医療広域連合規約の変更についてと、関連がある議案第 47 号 令和 6 年度江南市国民健康保険特別会計補正予算(第 1 号) についての反対討論、掛布まち子議員

これらの議案・予算は、今年 12 月 2 日から実施されようとしている、マイナンバーカードに健康保険証の機能を持たせたマイナ保険証への一本化、とマイナ保険証を持たない被保険者に対して、資格確認書等を交付できるようにする規約の変更や、システム改修予算となっています。

しかし、マイナンバーカードに他人の情報が誤ってひも付けされるなどの問題が相次いで、信頼が一挙に揺らぐ事態に陥りました。今回、国民健康保険特別会計補正予算に計上されたシステム改修には、マイナンバーの下 4 桁を全ての被保険者に通知する改修が含まれていますが、その目的は、紐づけ誤りがないかどうかを確認するためです。国自身、マイナ保険証に自信がないあらわれに他なりません。

国民から信頼されていないマイナ保険証の利用率は低迷を続けており、利用キャンペーンを国が薬局や病院をかりたてて必死で行っても、わずか 7%程度。9 割の人がマイナ保険証を利用していません。厚生労働省が公表した本年 3 月時点のマイナ保険証利用率は、推進側である国家公務員とその家族でさえ、全体で 5.73%、最も高い総務省でも 10.31%、最も低い防衛省にいたってはわずか 3.54%です。

議案質疑を通してわかったのは、江南市の後期高齢者医療被保険者でマイナ保険証登録を行っていない人が約 40%、国保被保険者で約 35%もいるということです。このような未登録者が非常に多く利用率も低迷している状態で、マイナ保険証に一本化すれば、病院窓口が混乱するだけでなく、市役所も煩雑な資格確認書の交付事務や 5 年で有効期限が切れる電子証明書の市役所窓口での更新手続きで大混乱となるのは目に見えています。

病院窓口では、マイナ保険証による資格確認がスムーズにいかないトラブルが全国各地で起き、10 割負担を要求される人も出てきています。

また、病気入院、施設入所、障害、認知症など要介護の高齢者にとって、マイナ保険証への一本化と面倒な更新手続きは非常にハードルが高く、だれでもいつでも医療が受けられなくなる危険も出てきます。

入所施設側などが高齢者のマイナ保険証を預かり、期限切れとならないように管理しなければならぬとすれば、施設にとって、とんでもない責任と負担を強いられることとなります。紙の保険証を残せばよいだけの話です。

巨額の予算と人手を掛けて多くの欠陥があるマイナ保険証に一本化して、誰でも医療が受けられる権利を保障する現行の健康保険証の廃止を強行すれば、今以上に混乱が広がり、国民皆保険制度を揺るがすことは明らかです。よって、マイナ保険証への一本化と現行の健康保険証の廃止は止めるべきとの立場から、議案第 39 号と第 47 号に反対とします。